

## スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	明治大学
整理番号	B18
構想名	世界へ！MEIJI8000 ―学生の主体的学びを育み、未来開拓力に優れた人材を育成―

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b>B</b>	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、「主体的に学び、考え、行動し、多様な価値観の中で、新たな未来を切り拓くグローバル人材を世界に送り出す」ことを大目標として、大学の教育改革と徹底した国際化の展開を通じて、特に、グローバルに活躍出来る「語学・コミュニケーション力」と「異文化理解力」の強化を進める意欲的な取組である。</p> <p>「日本の教育モデル大学」、「国際通用性の高い日本の拠点大学」を目指し「総合的教育改革」を掲げた構想の熟度は高く、明治大学の現状を踏まえた特徴あるプログラム（例えば、「世界に飛び出す100の国際プログラム」や「学生による学生支援制度」）に関しては、着実に取組を始めている。特に、アクティブ・ラーニングを主体とする学びのシステムを構築しようとしている点や、新たな時間割と柔軟な学事暦の導入に果敢に取り組んだ点は高く評価出来る。</p> <p>しかしながら、体制の整備状況に比べ、外国人留学生数や日本人学生に占める海外留学経験者数等の重要な実績値が数値目標を下回っており、これをどのように軌道に乗せていくかが、今後の重要課題である。科目ナンバリングやテニユアトラックの導入は未だ実施に至っておらず、年俸制については、特任教員などでは導入済みだが十分なレベルには達していない。また、英語学位コースの設置数や、研究面での国際的な発展戦略という採択時に留意事項として示された点についても、根本的な対処が成されていない。</p> <p>学生による授業評価については、「全専任教員は1科目以上の実施を必須」としているのみであり、当初の目標自体が高いとは言えない上に、学生による授業評価実施授業科目数の割合が極めて低く、改善が必要である。TOEFL等の外部試験の活用、IRの機能強化についても目標を下回っており、今後一層の努力が望まれる。また、転学科・転学部の全学部導入についても具体的な検討が進んでおらず、5年一貫制課程の全学的導入は検討段階に留まっている。</p> <p>当初目指した「総合的教育改革」が着実に実施されるよう、各項目に関する分析と具体的な対策を十分に検討し、目標の達成に向けた取組が進められることを期待する。</p>	